

## 第2章 良好な景観の形成に関する方針

[景観法第8条第3項]

### 第1節 基本目標

本市では、市のシンボルである球磨川の流れに沿って開けた八代平野や山間部・河川沿いの集落を中心に、古くから人々が暮らしや生業を営み、地域固有の景観を育んできました。

これらの景観は、歴史や文化、風土など、時間の流れに育まれた地域の物語（ストーリー）が、現代の暮らしの風景として形づくられてきたものであり、地域の誇りや魅力となるものです。

私たちは、先人達が大切に育んできた「郷土やつしろ」の景観を「市民共有の財産」として受け継ぎ、未来へ繋いでいく義務があります。

そのため、これらの景観を大切に守り、育み、今後、新しいものをつくる時は、地域固有の景観や風土との調和に配慮することで、地域に寄り添う暮らし方を実践していきます。

「景観を育むことは、人の心を育むこと。」

このような考えで、人と風景がともに輝きながら、住む人にとっても訪れる人にとっても心地よく、誰もが誇れるまちにしていくため、以下のとおり景観まちづくりの基本目標を定めます。

#### 基本目標

と き  
球磨川と時間の流れに育まれた  
人と風景がともに輝くまち “やつしろ”

### 第2節 基本方針

#### (1) 景観形成の視点

本市の景観形成を取り巻く現状と、主な問題点・課題を踏まえ、効果的かつ効率的な市全域の景観形成を進めるための基本方針として、次の3つの視点を設定します。

#### 1 “八代らしさ” を醸し出す景観資源の保全・育成

東部の九州中央山地から西部の八代海に至る、多様でダイナミックな地勢や市の骨格となる球磨川等の河川、幹線道路、鉄道からなる景観構造は、“八代らしさ”を構成する大きな要素です。

また、八代城跡や城下町の風情が残るまちなみ、日奈久温泉街、棚田が美しい山村集落、五家荘や石橋群などは、特徴ある価値を有しており、各地に伝わる祭りや伝統行事などの歴史・文化的な景観と重なり合って“八代らしさ”を醸し出しています。

しかしながら、市を取り巻く様々な社会的変化の中には、景観の持つ価値が損なわれると懸念されるものもあることから、景観の価値を守っていくための仕組みづくりが必要です。

そこで、全市域を対象とした景観計画を策定することにより、景観施策の実効性を高め、“八代らしさ”を醸し出す景観を守り、育てていきます。

## 2 新しい“八代ブランド”となる景観づくり

「八代妙見祭の神幸行事」が、ユネスコ無形文化遺産に登録され、球磨川第一橋梁を含むJR肥薩線が、日本イコモス国内委員会が選ぶ後世に残したい「日本の20世紀遺産20選」に選定されました。

また、八代港への海外大型クルーズ船の寄港も増えており、国内外から本市への注目が集まっています。

市内には、干拓事業の樋門群と農地が織りなすパッチワークの風景や夕日と工場群がセットになった風景、緑豊かな棚田の山村風景、四季折々の石橋群の風景、球磨川沿いや晩白柚畑を走る鉄道の風景など、市民が誇る景観が数多くあります。

そこで、本市の多様な景観資源を広くアピールするため、心に残る「わがまち八代」のベストシーンをより良く見せる戦略的・重点的な「眺めの場」づくりに着目し、新しい“八代ブランド”となる景観づくりを進めていきます。

## 3 “八代市民が主体”の景観まちづくり

現在、清掃活動や庭先緑化など、市民による自主的な景観づくりの動きは見られますが、まだ一部の活動として留まっており、景観に対する市民の意識は決して十分とはいえません。

このような市民の景観形成意識に対して、その更なる啓発のきっかけとなり、市民・事業者・行政の協働による景観形成につなげていくため、景観まちづくりの考え方・方策が強く求められています。

そこで、“眺めの小路”を中心に、身の回りから始める花植え、生垣の手入れ等の緑化活動や清掃活動など、市民が主体の景観まちづくりを進めていきます。

### (2) 景観形成の共通方針

景観構造（景観ゾーン・景観軸）によらない市全域の景観形成を進めるための基本方針として、次の3つの共通方針を設定します。

#### 1) 歴史・文化資源の保全と継承

本市は、八代城跡の堀や石垣、松浜軒や薩摩街道沿いに残る社寺・町家等をはじめ、数多くの歴史資源を有しています。

また、干拓農地の用水路である井手や洗い場、宮地地区の紙漉き水路、棚田と一体となった山村集落、坂本地区の細い路地が残る球磨川沿いの集落、全国的に知られる「彦一とんち話」の舞台となった場所など、文化資源も数多く残っています。

さらに、八代妙見祭神幸行事をはじめとする祭り、各集落に残る「お堂を中心とした

小さな祭り」や「年中行事」が、暮らしに密着した文化的景観を形づくっています。

これら歴史・文化資源の一つひとつが、歴史の変遷が織り成すストーリーを持っており、そのストーリーと一体となった歴史・文化資源を守り、育み、次世代へ継承していきます。

## 2) 各地域の成り立ち・変遷を踏まえた景観形成

各地域において景観資源を活かした景観形成に取り組む際には、各地域の成り立ち、変遷にも目を向け、そのストーリーを踏まえた景観形成のルールづくりを行うことで、歴史・文化、風土、暮らしとの調和に配慮した景観誘導を図り、地域の誇りを高め、人の営みが息づく景観形成を進めます。

## 3) 景観形成を円滑に進めるための体制づくり

### ●景観まちづくりに対する機運の高揚

きめ細かな景観づくりのためには、市民が主体となった草の根的な景観まちづくりが必要です。

そのため、景観関連の計画づくりや整備プロセスの中で、景観まちづくりに対する勉強会・広報など、市民の意識啓発を促す工夫を織り込み、市民の景観に対する意識向上や景観まちづくりの機運を高める取り組みを行っていきます。

### ●景観形成に向けた体制づくりの推進

景観は、色彩を除いて定量化の難しい事象です。また、良好な景観形成のためには、市全域において、一概に同様のルールが有効とは限らず、地区ごとに周辺との調和を総合的に勘案しつつ、最適なデザイン等を検討していくことが必要となります。

そのため、景観のルール自体が定性的で幅のある表現になることが多く、良好な景観形成は、行為者の裁量に委ねられる部分が多少なりとも存在します。

そこで、良好な景観形成の将来にわたる担保を目的に、専門家を含む審査組織や関係部署が連携した庁内検討組織、景観アドバイザー制度など、実効性の高い景観形成に向けた体制を構築します。

また、市民主体の景観まちづくりを促進するために、花植え等の緑化や建築物等の修景への助成など、活動を支援する制度の創設を検討します。

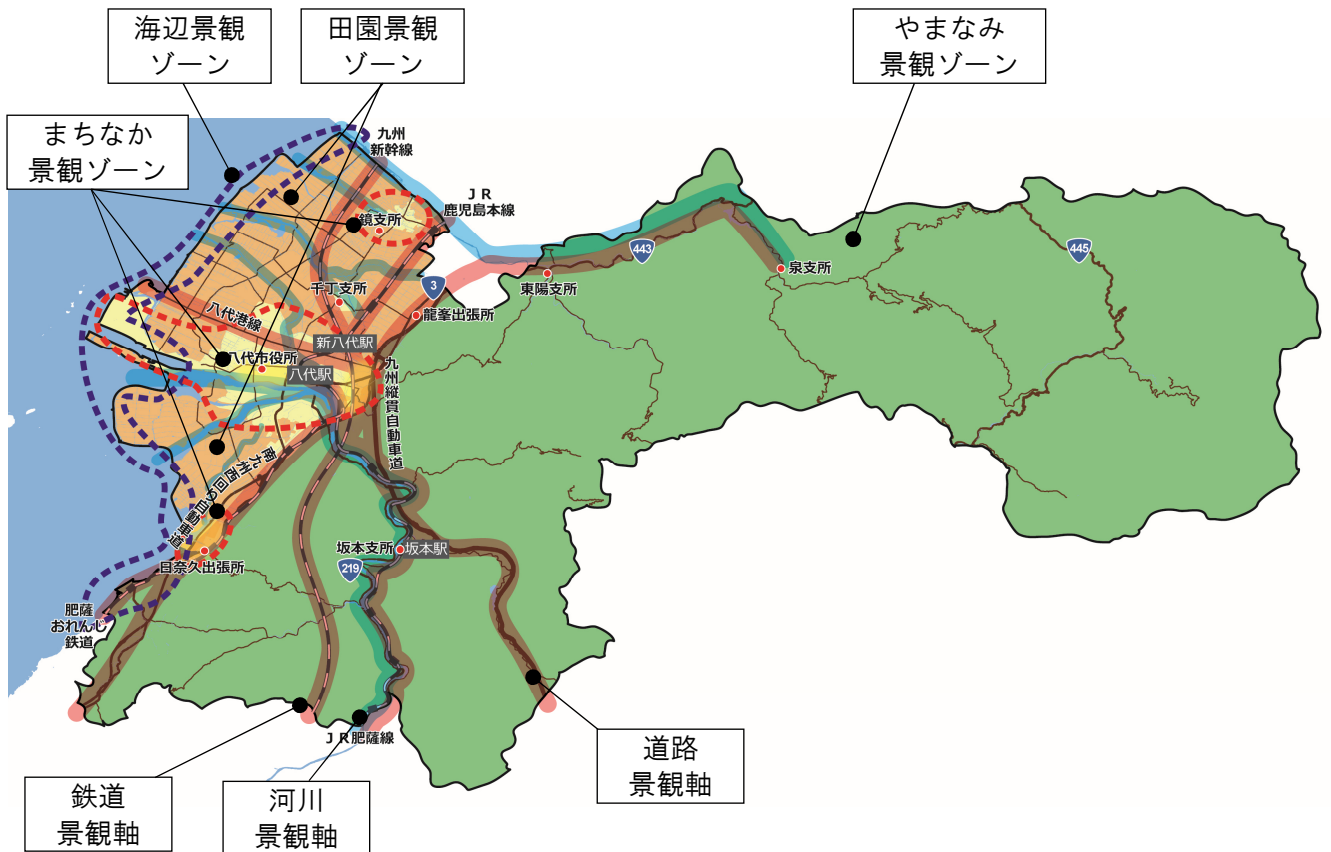
### 第3節 景観構造別の景観形成方針

景観形成の基本目標と基本方針を踏まえて、景観特性から区分した4つの景観ゾーンと3つの景観軸に分けて、それぞれの景観形成方針を設定します。

なお、景観形成方針の検討にあたっては、「八代市景観まちづくり会議」で抽出した景観まちづくり活動の主なフィールドとなる“眺めの小路”からの景観を主眼に置きました。

▼景観ゾーン・景観軸のイメージ

景観ゾーン・景観軸	概要	主な要素
やまなみ景観ゾーン	東部の山間部を中心とした地域	山地、丘陵地、山村集落、棚田
海辺景観ゾーン	西部の八代海沿岸地域	八代海、干潟、工業地
まちなか景観ゾーン	中心市街地、用途地域内市街地	中心市街地、郊外住宅地
田園景観ゾーン	干拓地・田園を中心とした地域	田園、田園集落
河川景観軸	主な河川沿い	河川
道路景観軸	主な幹線道路沿い	幹線道路
鉄道景観軸	鉄道沿い	鉄道



▲景観ゾーン・景観軸のイメージ図



## (1) やまなみ景観ゾーン

### ①特性

- 九州中央山地国定公園や五木五家荘県立自然公園等を中心とした景観ゾーンです。
- 四季折々の変化に富んだ緑の景観が、地域の人々や訪れる人の目を楽しませています。
- 山間部には、美生の棚田をはじめとする生姜畑や水稻の棚田、茶の段々畑など一体となった山村集落が点在し、文化的景観を形成しています。

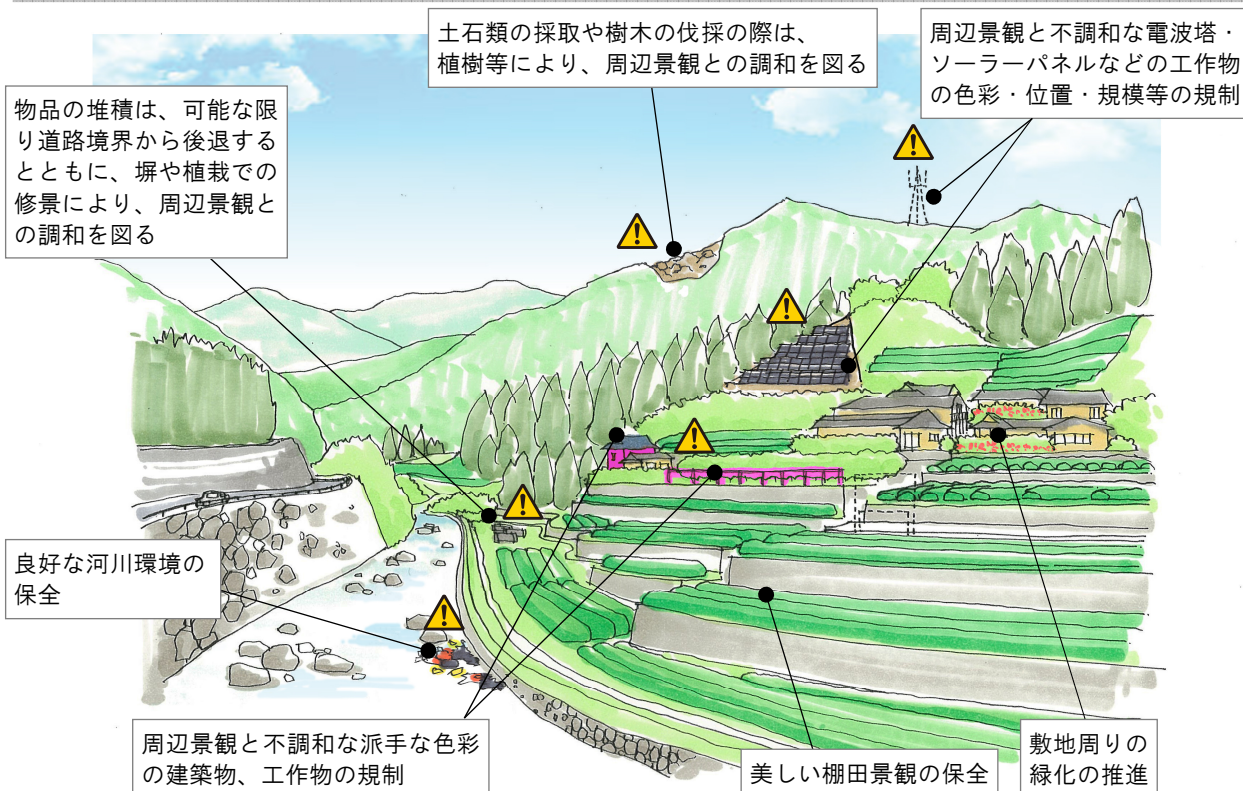


### ②課題

- 農林業振興との連携や担い手の育成による良好な山並み景観と山村集落地等の景観保全
- 棚田のオーナー制度や石垣保全の取り組みによる棚田の景観保全
- 吊り橋、滝、展望台など、眺望スポット周辺の重点的な景観保全・育成
- 山村集落や棚田などを中心とする”眺めの小路”沿線の重点的な景観誘導

### ③景観形成方針

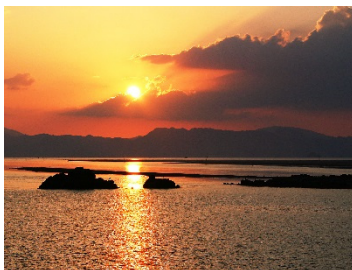
九州中央山系の山林や棚田の維持保全を図り、  
四季の移ろい<sup>め</sup>を愛でる、谷あいの里の景観づくり



## (2) 海辺景観ゾーン

### ①特性

- 雄大な八代海や干潟の海岸線を含む景観ゾーンです。
- 八代港からは三ツ島・雲仙・天草を見渡すことができ、八代海を背景にした工場群やクルーズ船の景観が楽しめます。
- 海域が、西部一帯に広がっているため、各所から八代海に映える美しい夕日を眺めることができます。特に国指定名勝「不知火及び水島」は、夕日と干潟をセットで見ることができる眺望スポットです。
- 干潟には、多くの貴重な干潟生物が生息し、シギ・チドリ類の飛来地となっています。

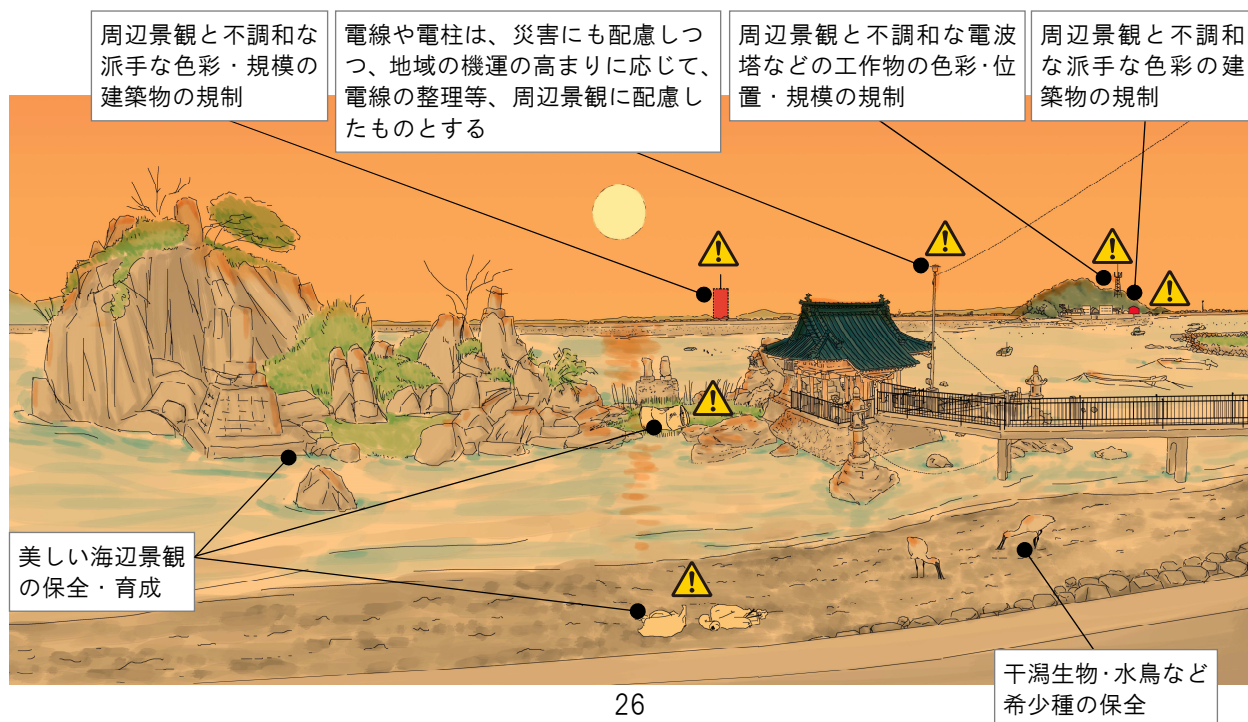


### ②課題

- 八代海や干潟の良好な海辺景観・自然環境、貴重な干潟生物の保全
- 海辺景観との調和や夕日と海岸線への眺望に配慮した景観誘導
- 背景となる八代海の景観と調和した良好な工業景観の育成
- 国際クルーズ拠点に相応しい八代港の「海の玄関口」としての景観形成
- 海辺景観を活用した親水空間の創出

### ③景観形成方針

夕日が美しい八代海の豊かな自然環境の保全・活用に努め、  
夕暮れに島かげ映える 海辺の景観づくり





### (3) まちなか景観ゾーン

#### ①特性

- 中心市街地の住宅地や商業地を中心とした景観ゾーンです。
- 本市中心部には、江戸時代の薩摩街道を含む城下町の町割りが今も残り、市街地を形づくる基盤となっています。
- 城下町の風情が残る細い路地や社寺・町家が点在し、近くには本市の経済・産業発展の起点となった貿易港「徳淵の津跡」や「蛇籠の船着場」などの歴史的景観が残っています。

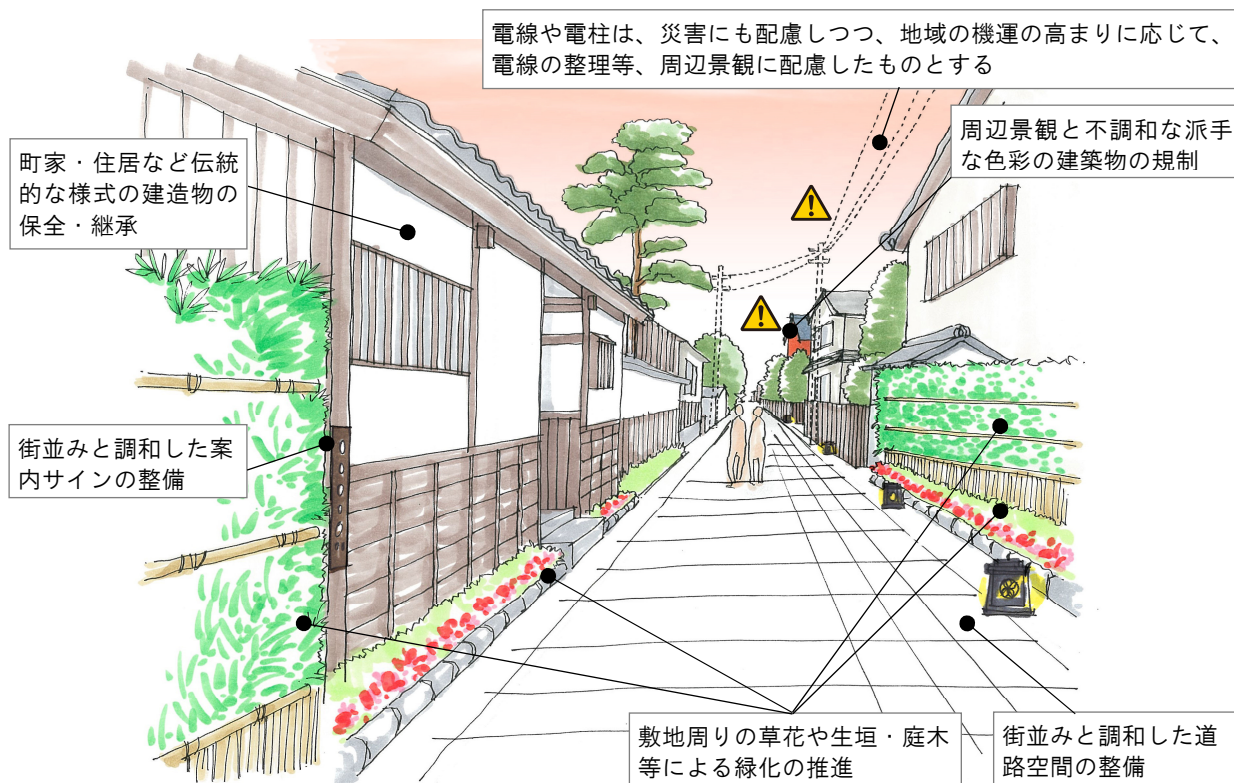


#### ②課題

- 伝統的な様式の建造物、城下町の風情が残るまちなみの保全・継承
- 「徳淵の津跡」や「蛇籠の船着場」などの歴史的景観の保全
- 市民・事業者との協働による緑豊かな住環境の保全・育成
- 案内サインや休憩施設の整備による景観資源の効果的な活用

#### ③景観形成方針

### まちを歩いて楽しめる城下町の風情と調和した景観づくり



### ①特性

- 郊外部の住宅地を中心とした景観ゾーンです。
- 市街地周辺の郊外部では住宅地の開発が進み、公共施設の整備と併せて、くらしに潤いや安らぎを与える快適な環境づくりが求められています。

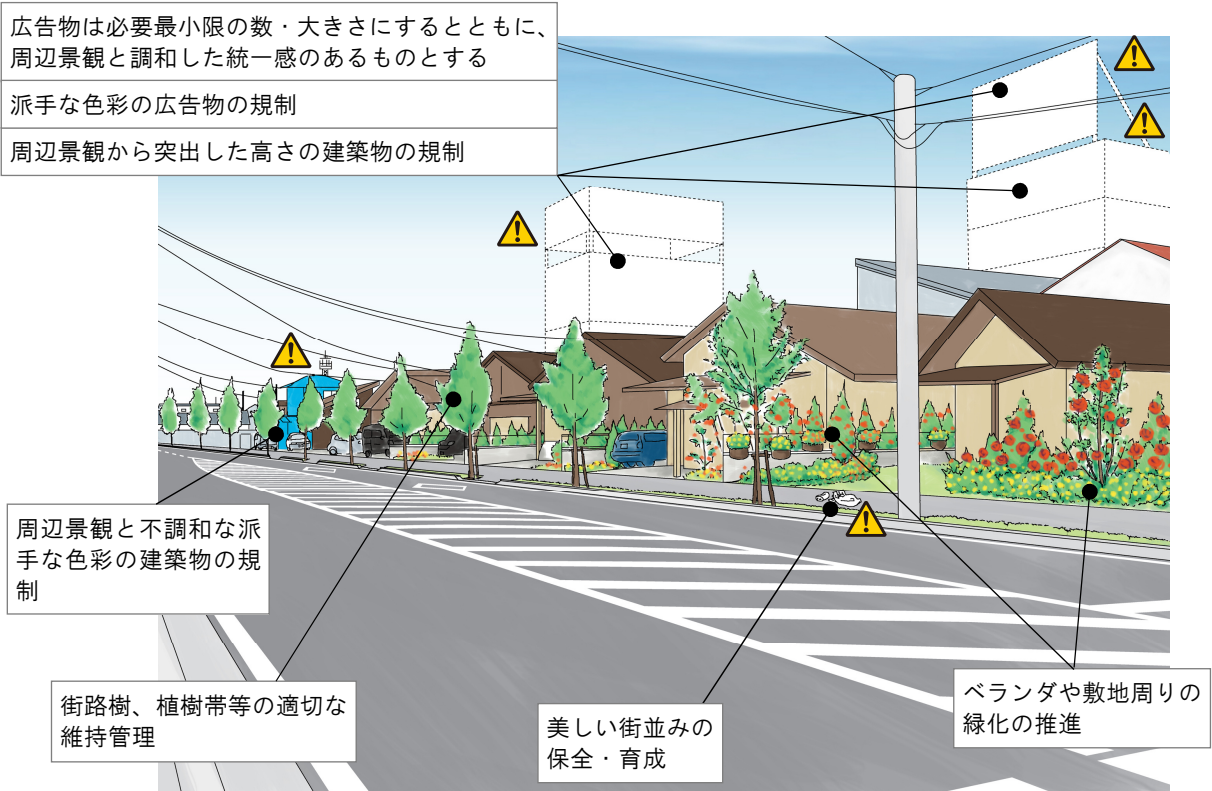


### ②課題

- 統一感のある良好なまちなみの形成
- 市民主体の緑あふれる住環境の保全・育成
- 街路樹や敷地外縁部の緑化などによる沿道景観の保全・育成

### ③景観形成方針

良好で魅力的な住環境の形成を図るとともに、  
緑豊かなガーデンシティの景観づくり





## (4) 田園景観ゾーン

### ①特性

- 四季折々の田園景観が広がる干拓農地を中心とした景観ゾーンです。
- 西部には球磨川が運び出す土砂によって作られた沖積平野と、16世紀後半から進められた八代海の干拓事業により、広大な八代平野が形成されています。
- 干拓農地では、日本一の生産量を誇るい草や水稻、野菜の栽培が行われています。
- 干拓事業の遺産である樋門群や水を農地に引き入れるための用水路である井手、洗い場があり、八代を特徴づける景観のひとつとなっています。

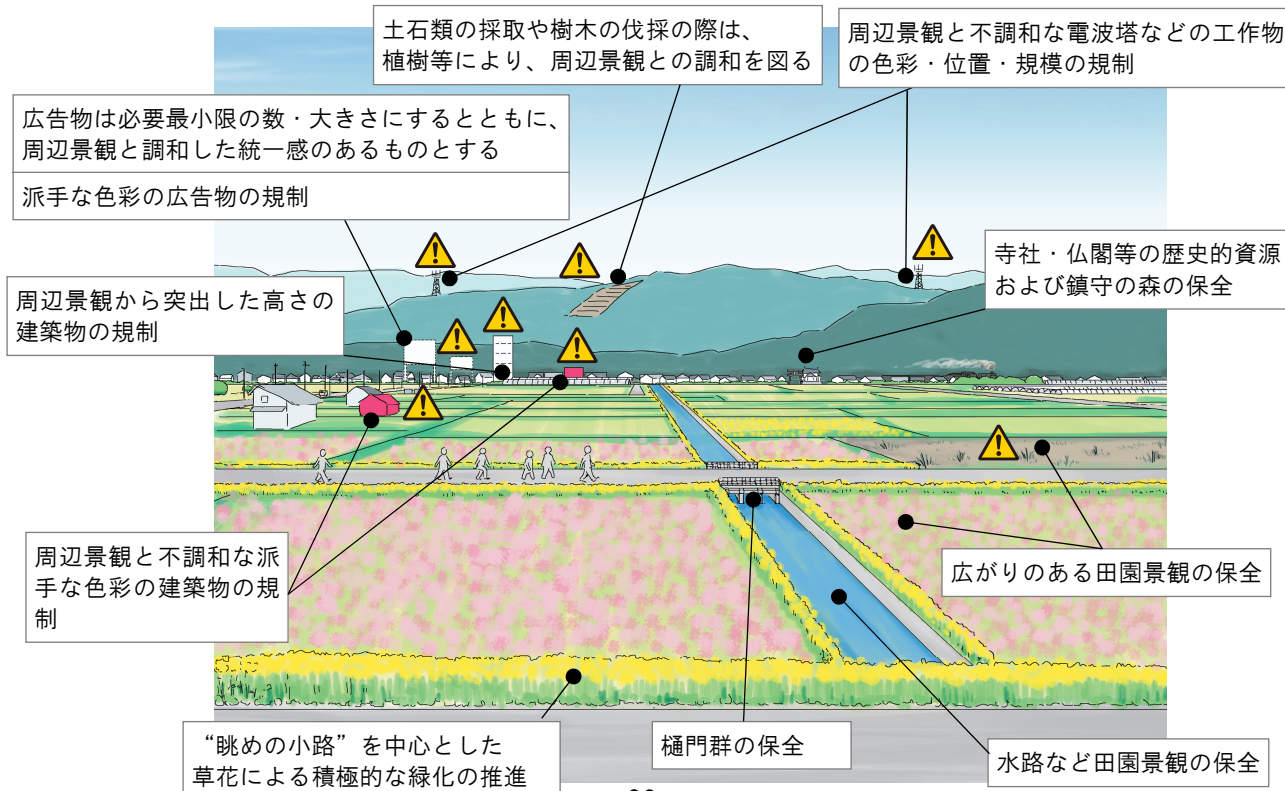


### ②課題

- 農業振興との連携や担い手の育成による良好な田園・集落地景観の保全
- 干拓事業の遺産「樋門群」の保全・活用
- 用水路や洗い場等の暮らし・生業に根付いた文化的景観の保全
- “眺めの小路”沿線の積極的な花植え活動、緑化の推進

### ③景観形成方針

八代平野の田園景観を守り、継承するとともに、  
干拓農地に広がる 四季折々の景観づくり



## (5) 河川景観軸

### ①特性

- 市内を流れる球磨川や前川、氷川、流藻川、水無川等の河川とその周辺に広がる景観軸です。
- 球磨川の悠然とした流れは市のシンボルとなっており、川を渡る橋や土手からは市街地景観ややまなみ景観などを遠望することができます。
- 河川沿いは、ウォーキングやサイクリングなどの利用者が多く、身近に自然を感じることでできる川辺の散歩道として人気があります。

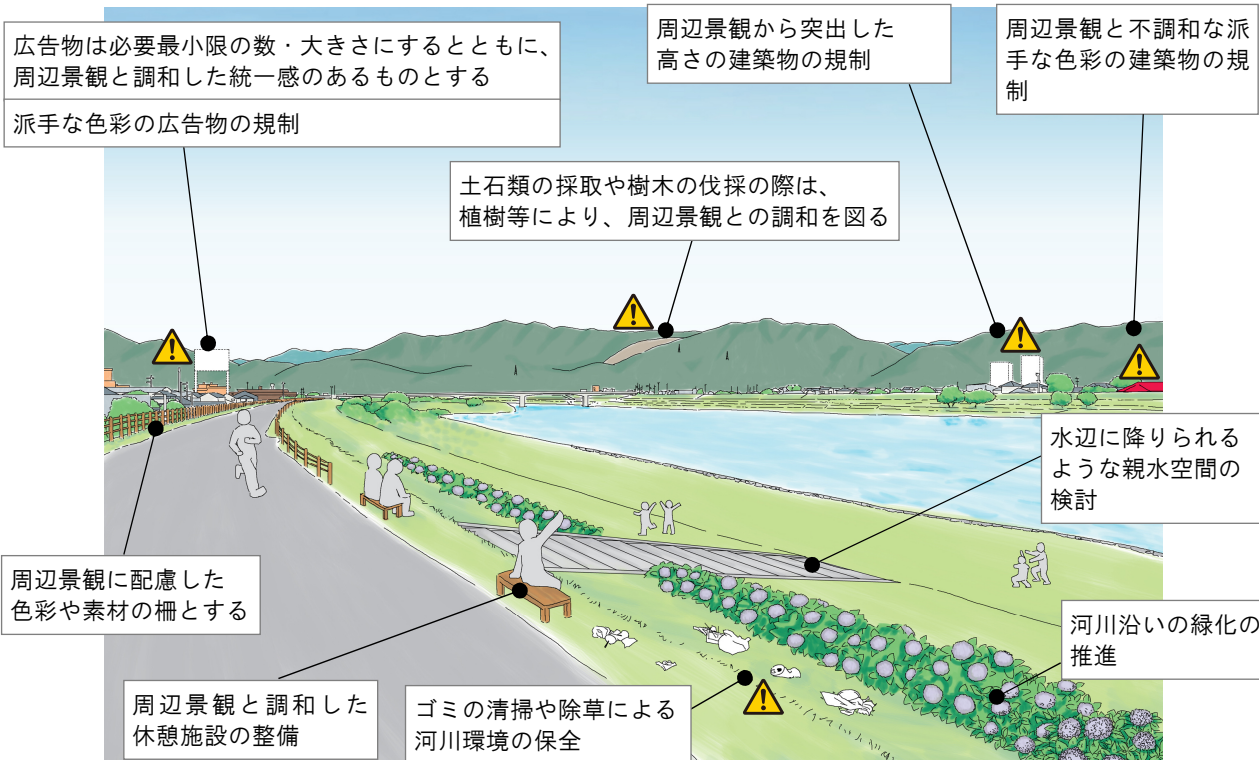


### ②課題

- 河川沿線からの眺望に配慮した景観誘導
- 市民主体の草刈り・花植え活動による良好な河川景観の維持・向上
- 潤いのある良好な河川環境を活用する親水空間の創出

### ③景観形成方針

球磨川や前川、氷川などの豊かな親水空間と、  
流れに寄り添う散歩道の景観づくり





## (6) 道路景観軸

### ①特性

- 人々の活動を支える国道3号や国道219号、県道八代鏡宇土線、県道八代港線、九州縦貫自動車道など、幹線道路沿道の景観軸です。
- 国道3号や県道八代鏡宇土線、県道八代港線の沿道には商業施設が集積し、賑わいのある沿道景観となっています。

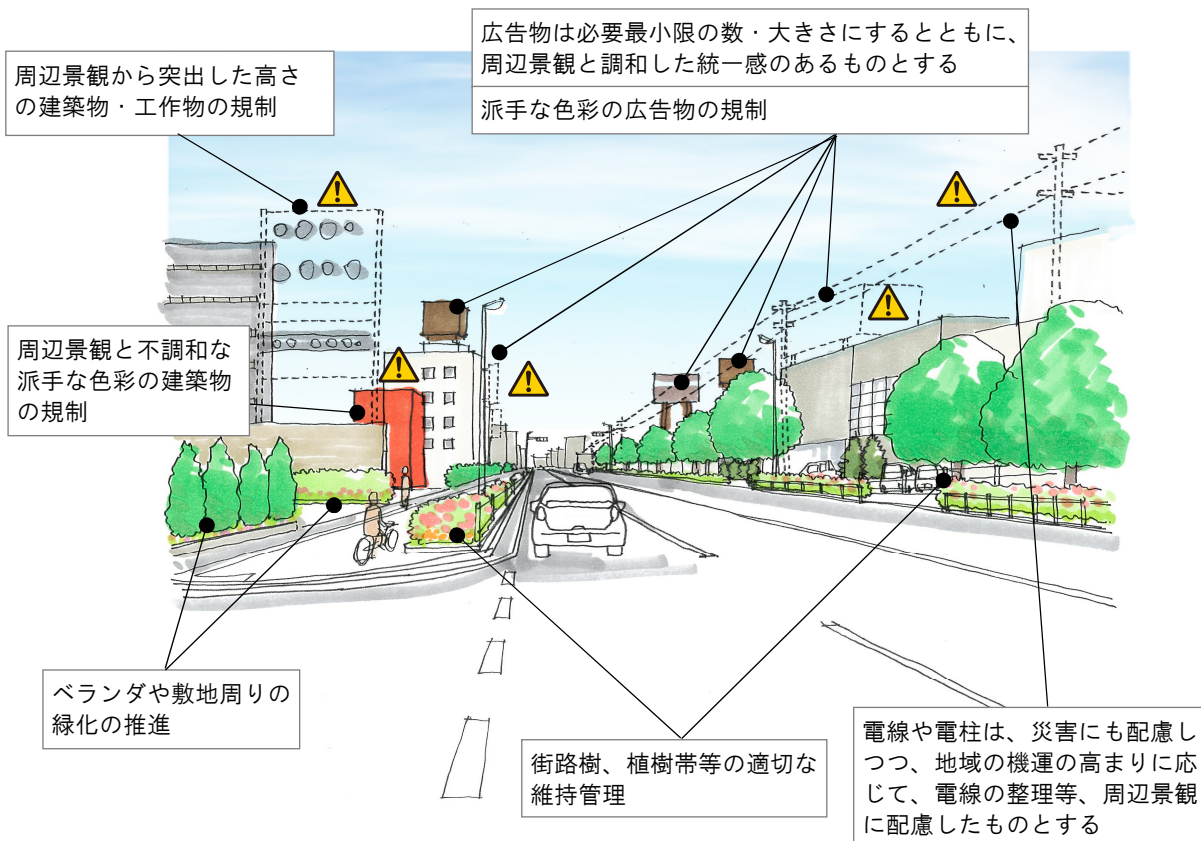


### ②課題

- 周辺の住環境・田園景観と調和のとれた沿道景観の創出
- 街路樹の維持管理や敷地周りの花植え活動による良好な沿道景観の維持・向上
- 沿道商業施設や大型屋外広告物等の色彩・規模の規制・誘導

### ③景観形成方針

周辺環境と調和し、暮らしを支え、にぎわいを運ぶ大動脈の景観づくり



## (7) 鉄道景観軸

### ①特性

- 市内を南北に走る鉄道沿線の景観軸です。
- J R鹿児島本線、肥薩おれんじ鉄道、J R肥薩線、九州新幹線の車窓からは、広大な干拓地や八代海、晩白柚畑や高田みかん畑、球磨川の清流など、八代ならではの美しい景観を眺めることができます。
- 球磨川第一橋梁を含むJ R肥薩線が、「日本の20世紀遺産20選」に選定されました。また、SLの走る風景は、特徴的な景観の一つとなっています。

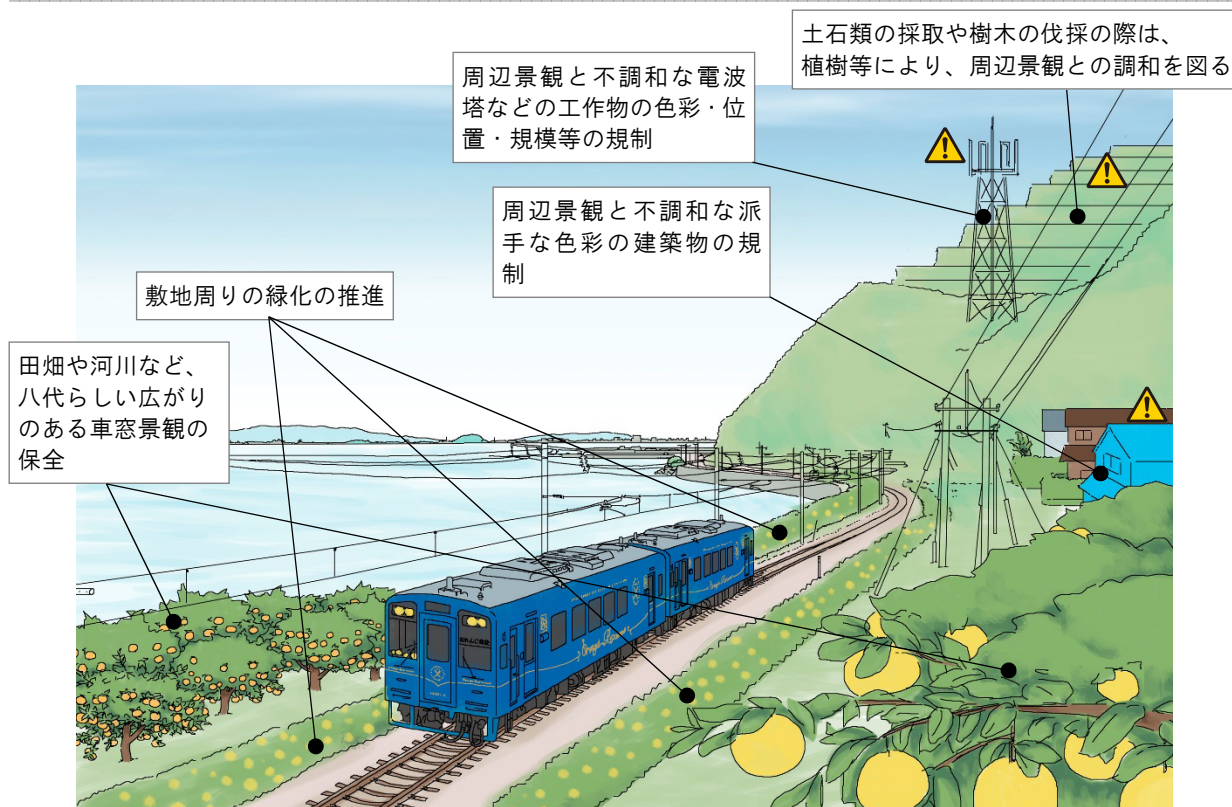


### ②課題

- 八代海や田畑・河川などを眺めることができ、広がりのある車窓景観の保全
- 市民主体の敷地周りの花植え活動による良好な沿線景観の維持・向上
- 沿線商業施設や大型屋外広告物等の色彩・規模の規制・誘導
- 晩白柚畑や高田みかん畑など、八代ならではの沿線景観の維持・保全

### ③景観形成方針

#### 海や山、河川、晩白柚畑を眺める車窓の景観づくり



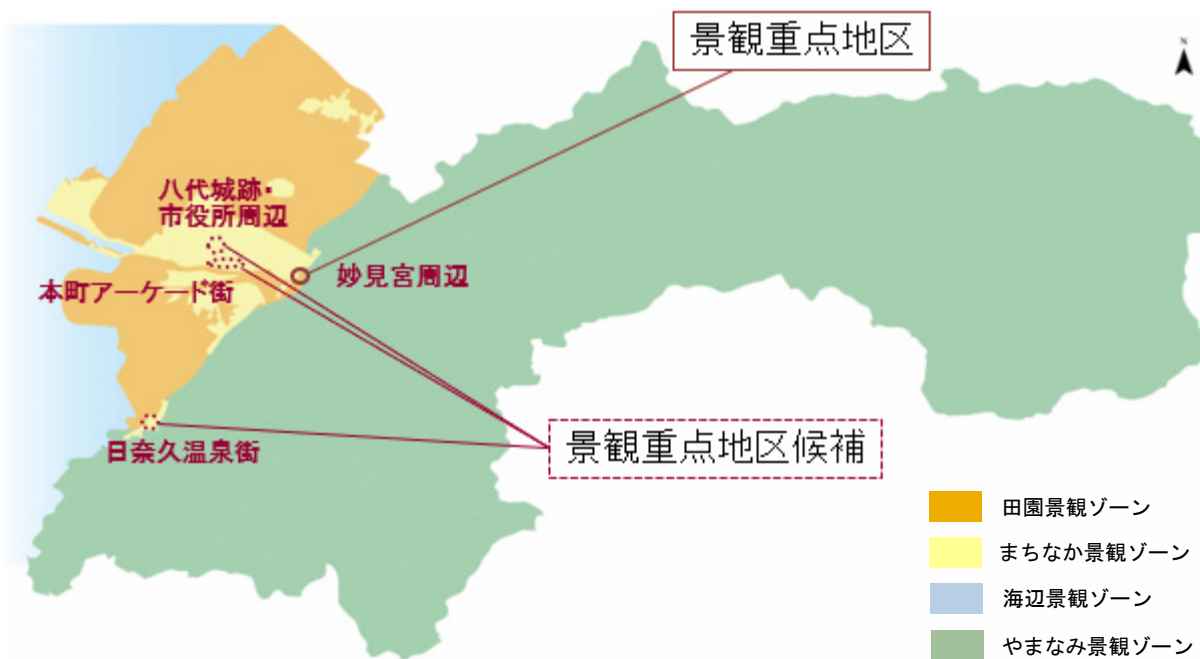
## 第4節 景観重点地区と景観重点地区候補の景観形成方針

市全域を対象に景観形成を進めていきますが、地域における景観意識の度合い、景観に与える影響度（イメージアップの度合い）、市民の関心度（注目度）には差があることから、市全域で一斉に、一律に景観形成を進めていくことが、必ずしも効果的であるとは限りません。

まずは、市民の関心が高く市の魅力向上（イメージアップ）に効果が高い地区で、重点的に景観まちづくりを行うことにより、市の景観まちづくりの手本となるモデルをつくり、市民の景観に対する意識の醸成につなげていくことが重要です。

そこで、市民の関心が高く、積極的な景観誘導が必要と考えられる地区を「景観重点地区候補」に位置づけ、その後、地区住民との協議により景観形成方針や景観ルールに関する合意形成が図られた場合には、よりきめ細やかな規制誘導を行う「景観重点地区」に指定していくこととします。

本計画では、「妙見宮周辺地区」を令和6年4月1日に「景観重点地区」に指定し、景観形成方針を示しています。また、「景観重点地区候補」に位置づけられている「八代城跡・市役所周辺地区」、「本町アーケード街地区」、「日奈久温泉街地区」の3地区については、今後、各地区の景観形成方針（案）を基に、地区住民と協議を進めていくこととしています。



▲景観重点地区・景観重点地区候補 位置



## (1) 妙見宮周辺

### ①特性

- 「妙見さん」と呼ばれ、親しまれる八代神社(妙見宮)を中心とした景観エリアです。
- ユネスコ無形文化遺産に登録された八代妙見祭や八代神社氷室祭が行われる時期は、多くの人を訪れ、賑わいをみせています。
- 八代神社(妙見宮)の門前町として形成され、今でも、春光寺、紙漉き水路などの風情ある歴史的景観が残っています。
- 市街地を見渡すことができる古麓稻荷神社は、良好な視点場となっています。

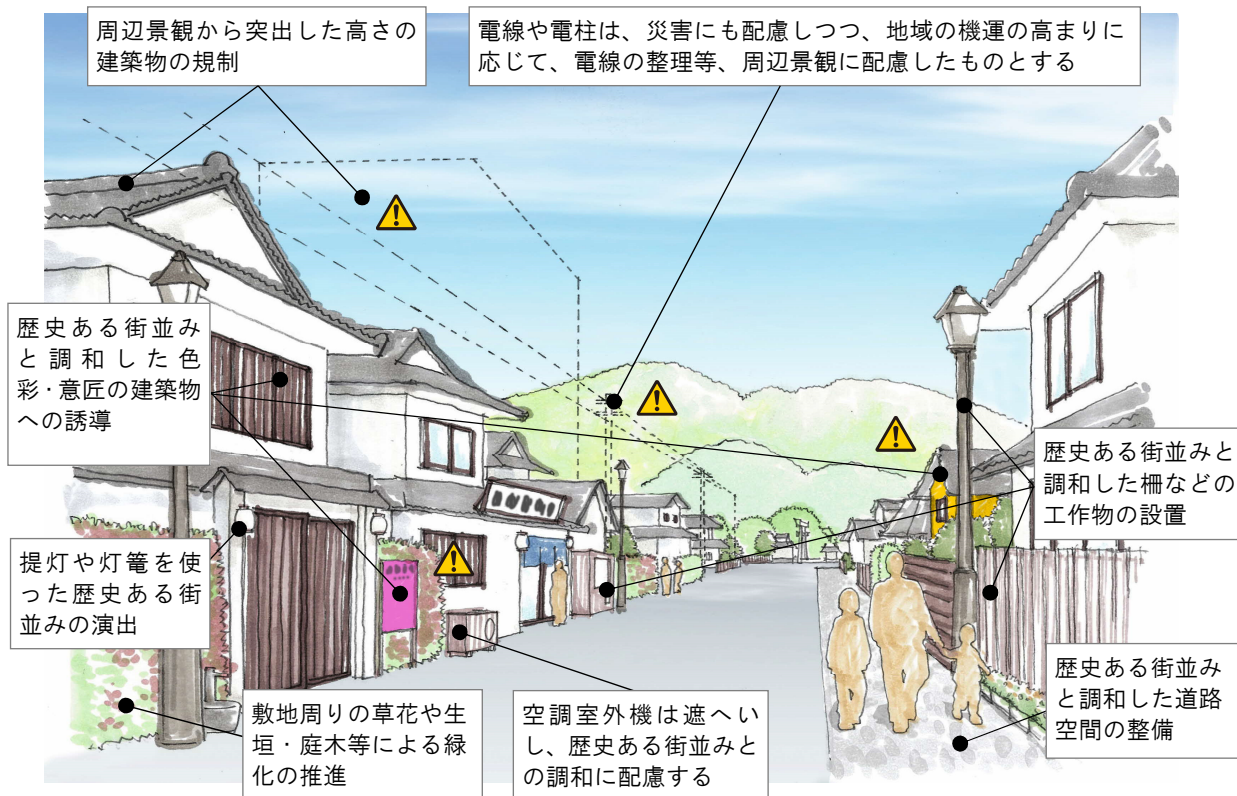


### ②景観重点地区への選定理由

- 八代妙見祭など、祭りの風情と調和した歴史と風格のあるまちなみ形成が必要な地区
- 八代神社(妙見宮)などの歴史的資源と住宅地との調和が必要な地区
- 歴史的資源の維持・保全が必要な地区

### ③景観形成方針

#### 門前町の風情が残る「妙見さん」の景観づくり



## (1) 八代城跡・市役所周辺

### ①特性

- 八代城跡・市役所を中心とした景観エリアです。
- 八代城跡のお堀や石垣、松浜軒、社寺、町家など、多くの歴史的観光資源が集まっており、市を代表する観光エリアとして、国内外から観光客が訪れています。
- 市役所は新庁舎整備が進められており、庁舎を中心としたエリアの景観整備に注目が集まっています。



### ②景観重点地区候補への選定理由

- 八代城跡などの歴史的資源と周辺景観との調和が必要な地区
- 市役所新庁舎と周辺市街地との一体となった景観整備が求められている地区
- 市を代表する観光エリアとして、国内外から観光客を呼び込むための魅力ある景観形成が求められている地区

### ③景観形成方針（案）

#### 市民の癒し「八代城跡」と調和した、和の景観づくり

電線や電柱は、災害にも配慮しつつ、地域の機運の高まりに応じて、電線の整理等、周辺景観に配慮したものとする

広告物は必要最小限の数・大きさにするとともに、周辺景観と調和した統一感のあるものとする

派手な色彩の広告物の規制

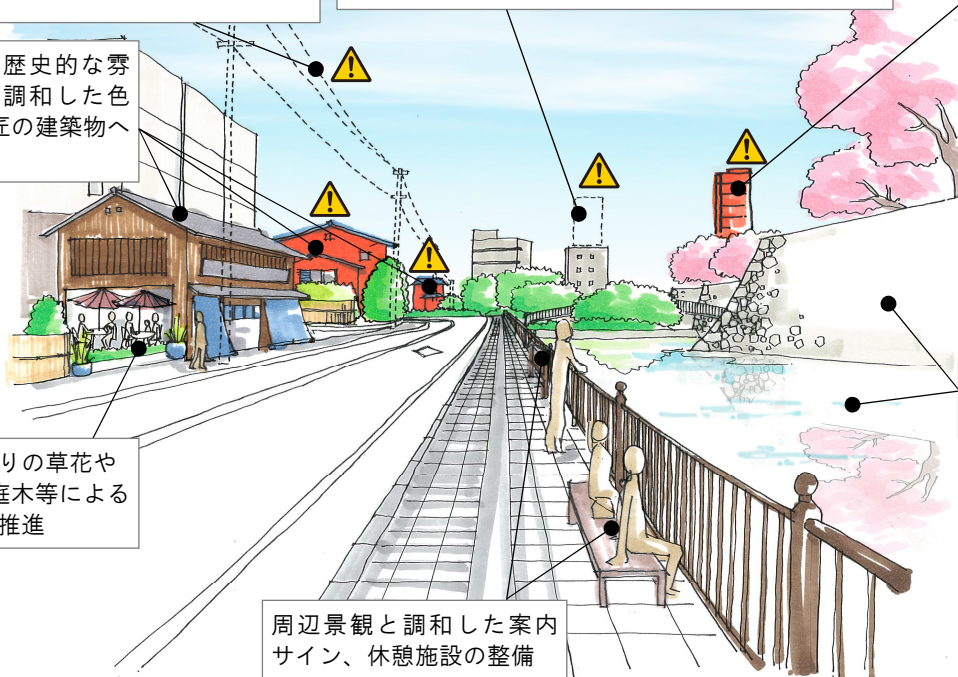
周辺景観と不調和な派手な色彩・規模の建築物の規制

周辺の歴史的な雰囲気と調和した色彩・意匠の建築物への誘導

敷地周りの草花や生垣・庭木等による緑化の推進

周辺景観と調和した案内サイン、休憩施設の整備

石垣の草取り、お堀の水の浄化





## (2) 本町アーケード街

### ④特性

- 全長約730mに渡る本町アーケード商店街を中心とした景観エリアです。
- 飲食店や衣料店など、約150店舗が軒を連ね、市民の生活を支えています。
- 休憩所や広場があり、市民の交流の場、憩いの場となっています。
- 「土曜夜市」やクルーズ船寄港に併せた「マルシェ」など、まちの賑わいを創出するイベントが行われています。
- 薩摩街道沿いをはじめ、近隣には社寺や町家が点在しています。



### ⑤景観重点地区候補への選定理由

- 八代城跡・松浜軒等と一体となった「和の景観づくり」など、テーマ性を持った統一感のある景観形成が必要な地区
- まちの賑わいを創出するイベント活動に併せて、集客力向上を目的とした商店街主体の景観まちづくり活動が必要な地区

### ⑥景観形成方針（案）

「和モダン」をテーマにした、統一感のある本町アーケードの景観づくり





### (3) 日奈久温泉街

#### ①特性

- 日奈久温泉街の趣あるまちなみを中心とした景観エリアです。
- 600年の歴史を持つ日奈久温泉は、熊本県内で最も古い温泉のひとつです。
- なまこ壁や木造建造物のまちなみが、今も残り、ところどころで小さなお堂や神社を見つけることができます。
- 棧敷の相撲場がある日奈久温泉神社からは、日奈久の市街地と八代海を眺めることができ、良好な視点場となっています。



#### ②景観重点地区候補への選定理由

- 景観形成事業を実施するなど、景観まちづくりの機運が高まっている地区
- 温泉街の風情を活かした統一感のある和風のまちなみ形成が必要な地区
- 歴史的資源の維持・保全が必要な地区

#### ③景観形成方針（案）

#### 歴史の香り漂うまち 日奈久温泉街の景観づくり

